

多高通信

第133号 平成28年8月29日発行



さどく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

浦戸巡検に行ってきました！



7月15日、災害科学科1年生が初の野外実習となる「浦戸巡検」に行ってきました。

国立研究開発法人・海洋研究開発機構より講師として臼井洋一先生をお招きし、前日に事前講義をしていただきました。

Google Map を使って海嶺を探し、実習をはじめ、日本列島を取り巻くプレートやその動きについての知識を深めました。

翌15日は生物班・地学班に分かれ、塩竈市浦戸諸島へ渡っての実習が行われました。チャーター船で寒風沢島に向かい、東京大学生産技術研究所・潮流発電施設も見学させていただきました。Terra を実験・実習ツールとして利用し、走向傾斜測定や観察記録、現在地の確認やルートの確認に活用しながらの実習となりました。

生物班は、寒風沢島や野々島の毛無崎でマツの葉のサンプリングを行い、出航ギリギリまで精力的にサンプリングを続けるなど、意欲あふれる実習を行いました。また、地学班は、寒風沢島で浦戸諸島を形成する大塚層・松島層の概要を臼井先生から学んだ後、

その場で走向・傾斜の測定法をご指導いただきました。野々島で



生物班・地学班それぞれの活動

は「大塚層・松島層の境界をグループで探索せよ」という課題のもと、グループごとに島内随所をまわり、議論しながら境界面を探し歩き走向・傾斜の測定や岩相記載を行うなど、地学の基礎的な実習を通して浦戸諸島の地質に関する理解を深めました。どちらの班も、学び

室蘭栄高校の皆さん
巡検の前日は七ヶ浜を訪れました。



を教科書で終えるのではなく、学んだことを武器として実際にフィールドで課題解決に挑む経験は、大変意義深い学習となりました。

また、今回は、前日より生徒間交流として訪問していた北海道室蘭栄高等学校理科2年生の有志13人も一緒に浦戸諸島で実習を行いました。「北海道内で地層がこのような形で見える場所はほとんどない」とのことです。室蘭栄高等学校の生徒も矢継ぎ早に臼井先生へ質問をしていました。

今後は生物班・地学班とも校内外の発表に向けて成果をまとめていきます。

■1年7組 小泉和馬(塩竈二中出身)

この浦戸巡検は、地学分野の観察・調査の野外実習を通して、私たちを取り巻く地球環境を理解することが目的でした。その中で観察・調査・試料採取の方法について学ぶことが大きな発見につながったと思います。実際に地層で走向・傾斜を測定し、その島の地質が見えてきたように思いました。

そして、松島層・大塚層というふたつの地層があることも分かりました。また潮流発電施設を見学し、技術の進歩を実感しました。今回の巡検で分かったことをしっかりとまとめ、新たな課題を見つけていきたいです。

東北大学サイエンスデイ

「心豊かに生きたい」

7月17日に東北大学川内萩ホールで開かれたサイエンスデイ対話フォーラム「心豊かに生きたい」災害とあなたの残したい未来社会」に、3年生1名、2年生1名、1年生4名が参加しました。

フリーアナウンサー柳生聡子さんの全体進行でフォーラムが進められ、東北大学災害科学国際研究所の奥村誠副所長、移動傾聴喫茶「カフェ・デ・モンク」(坊主のカフェ)で被災地を回っている栗原

講演の様子



市通大寺の金田諦應住職、鹿児島県沖永良部島を拠点に活動されている合同地球会社地球村研究所代表の石田秀輝東北大名誉教授の3名の講演を聴講しました。

講師の皆さんと



この基調講演に続いて、FM仙台の板橋恵子さんがコーディネーターとなり、本校が取り組む防災・減災活動の紹介や、災害科学科の1年生が入学の動機などを話しました。また、これからの復興のあり方や、防潮堤についての考え方などを、講演された3名と話し合いました。

大きな舞台でいろいろな考えや活動をされている方々とお話してきたことは大変貴重な経験となり、私たちがこれから活動する上での大きなヒントとなりました。3名の先生のお話は今回参加できなかった生徒にも聞かせてあげたいと思える時間となりました。

■1年7組 佐々木実夢(松山中出身)

ステージ上で何を話そうかと戸惑っていましたが、コーディネーターの板橋さんに自分の気持ちを上手く引き出してもらえたことも感謝です。復興のために力をつけている先生方の実のあるお話を聞いて、私も頑張ろうという気持ちになることができました。

海保・日赤 合同訓練

7月20日、海上保安庁・日本赤十字社災害合同訓練が行われ、1年生の保健委員や医療看護系志望の3年生など、本校生徒16名が要救助者役として参加しました。

今回の訓練は、2015年に締結された海上保安庁と日本赤十字社の協定に基づき海上保安庁の機動力と日本赤十字社の医療救護活動を生かして相互に連携し、災害時の傷病者の救出から医療活動までの対応を確認するためのものです。南海トラフ沖で起こった地震による津波被害で、多数の要救助者が発生する、



といった想定で訓練は行われました。

要救助者役の生徒は、機動救難士の方から要救助者としての演技指導を受け、傷病者の特徴や症状について、丁寧に指導していただきました。その後実際に警備救難艇に乗船し、船ごと釣り上げられて巡視船でトリアージ・応急救護を受けました。また、ヘリコプターでの移送訓練を間近で見学し、実際にヘリの中に入れていただきました。

午後からは、操縦室内や医務室等の見学や普段の船内での生活の様子や東日本大震災当時の海上保安庁の活動などについても説明がありました。また、特別に日赤の指導員の方々に船内で救急法の講習をしていただき、船独特の揺れの中で行う難しさを感じながら実技を行いました。

船内での救急法講習



高校生がこの訓練に参加するのは全国でも初めてということでしたが、参加した生徒からは、「人を助ける仕事に就きたい」といった感想が聞かれ、将来の目標につながる貴重な経験になりました。

APRU-IRIDES キャンパススクール 学校訪問交流会

7月21日、環太平洋大学協会(APRU)のサマースクールのプログラムの一環で、東北大学災害科学国際研究所(IRIDES)のコーディネイトのもと、中国やアメリカ、フィリピンをはじめ17カ国地域の大学教授・研究者の方々が本校を訪れ、生徒会・防災委員の生徒らと交流しました。



交流活動のワークショップでは、防災委員や生徒会のメンバーが加わり、東北大学が開発・啓発している「減災ポケット」(結ゆい)「プロジェクト」の英語版を使い、災害時に必要な事柄について話し合いました。参加した方からは、「若い方の意見や取り組みを自分の国に持ち帰って、防災の取り組みに生かしたい」という感想を寄せていただきました。

熊本地震被災地訪問

7月28日から8月1日の5日間、災害科学科1年生4名が、熊本地震の被災地を訪問しました。防災・危機管理ジャーナリストの渡辺実さんに、甚大な被害を受けた益城町・西原村を中心に案内していただきました。7月21日に今回の地震についての特別授業を行っていただき、その内容を踏まえての訪問となりました。

住宅の9割以上が被害を受けた益城町では、倒壊した住宅やブルーシートがかけられた屋根があちこちにありました。地表に現れた断層面や2m近く横にずれてしまった道路も見られました。実際に被災地を歩いて見て、被災者の話を聞いて、町全体が甚大な被害を受けたことを肌で感じることもできました。また、避難所やグリーンコープの被災者支援活動も見学しました。5日間の滞中で、災害科学科の4名は、益城町・西原村における熊本地震による被害の凄まじさを感じました。また、被災者が抱える不安や被災者を支える人たちの思いも受け取りました。復旧・復興にはまだまだ時間がかかります。熊本で頑張っている方々がいることを忘れず、現状をしっかりと宮城で伝え、広めていくことが熊本の力になると考えます。



もともとは点線のような道でしたが、矢印の方向に大きくずれてしまいました。

兵庫・三重 生徒交流会

8月3日に兵庫県舞子高等学校を中心とした「2016年 兵庫県高校生『東北訪問』学校交流活動」、同4日には「三重県学校防災ボランティア事

業」による生徒交流会がそれぞれ行われ、本校生徒会や防災委員会の有志が参加しました。

まず、3日に行われた兵庫県高校生との交流会では、舞子高校を中心とした兵庫県の高校生65名と一緒に、多賀城市内の「まち歩き」や本校が設置した。その後本校を会場に、「発災後24時間で行えること、やるべきこと」のテーマでワークショップを行いました。最後に、兵庫県の高校生からの御礼として復興支援ソング「花は咲く」などが披露され、感動的な交流会となりました。



兵庫の高校生による「花は咲く」の合唱。

4日には三重県の中学生・高校生そして大学生の41名が来校しました。まず「まち歩き」としてイオン多賀城店や末の松山を訪れました。その後、本校でのワークショップでは、四日市大学の学生がファシリテーター役となり「避難所運営ゲームHUG」を行い、実際の現場を想像しながら必死に知恵を出し合いました。参加した三重県の高校生からは、「実際に被災地にきてみて、勉強になったことがたくさんありました。ここで学んだことをこれから活かしていきます。」と感想を述べてくれました。



避難所運営ゲーム「HUG」の様子。

運動部 上位大会報告!

○山岳部男子・女子テニス部 インターハイ出場報告!

■山岳部男子 高橋弘基(2年7組 高崎中出身) 宮城の代表としてインターハイに出場しましたが、全国レベルは高く、改めて自分たちの実力やこれからの課題を見つめなおすことができ、下見登山を含め実りある1泊2日となりました。来年もインターハイに出場できるように、今回見つけ

た課題を克服できるよう、毎日の練習に取り組んでいきたいと思えます。

8月6日、島根県で行われたインターハイの女子シングルの出場してきました。初戦敗退という悔しい思いはありますが、インターハイという大きな舞台で戦うことができ、本当に楽しかったです。最高の形で部活動を引退することができました。テニス部の後輩たちには、私たち3年生がいた以上に楽しく明るい部活にしてもらいたいですし、大会の成績もたくさん残してほしいと思います。本当に応援ありがとうございました!



○水泳部 東北大会出場報告!

■木村海璃(2年4組 多賀城二中出身) 7月22日〜24日、秋田県総合プールで東北大会が行われ、400m自由形に出場してきました。全力を尽くしましたが、残念ながら予選敗退となってしまい、自己ベストも更新できず、悔いが残るレースとなってしまいました。9月には新人戦、来年は最後の高総体となるので、再び東北大会に出場し、さらに良い結果を残せるよう練習に打ち込みたいと思います。

文化部活動レポート

○合唱部 定期演奏会

7月23日、塩竈遊ホールにおいて、第34回合唱部定期演奏会が行われました。



ご来場ありがとうございました!



○語学研究部 ドイツ高校生と交流

多賀城市スポーツ少年団が受け入れたドイツスポートユースセンターに所属する高校生と多賀城高校の語学研究部を中心とした約20名の生徒が、7月30日から8月2日の4日間、文化交流をしました。七ヶ浜町被災地案内や塩竈魚市場・塩竈神社・笹かま作体験などの観光、本校剣道部・弓道部との日本の武道体験など、盛りだくさんの日々を過ごしました。おもてなしの準備を通して生徒達は様々なことを学んだようで、地域の方々と力を合わせて素晴らしい交流会となりました。



○軽音楽部・家庭部 Teens 浜ロック 2016 出発

流しそうめんも体験しました!

8月6日、七ヶ浜の菖蒲田浜海水浴場で、本校軽音楽部主催の野外ライブイベント「Teens 浜ロック 2016」が発売されました。今年、10日間の期間限定で行われた菖蒲田浜の海開き期間中に行われるイベントの一つとして、翌7日に行われた海開きのファイナルイベント「SEVEN BEACH FESTIVAL 2016」の実行委員の皆様からお話をいただき開催しました。また、ステージ脇のフードブース「花野夏(はなやか)」では家庭部が七ヶ浜のカフェ「cafe La Luna」と共同開発したオリジナルメニューを販売しました。



夏空の下、大勢の方にお越しいただきました!

家庭部のお店「花野夏」



家庭部が七ヶ浜のカフェ「cafe La Luna」と共同開発したオリジナルメニューを販売しました。